

一人でも多くの人にスポーツのきっかけを

TAKE FREE

ご自由にお持ち下さい

HEALTH & SPORTS LIFE

[ヘルス＆スポーツライフ]

vol. 92 JULY 2013



スペシャルインタビュー

[女子硬式野球]

金由起子 選手

Let's やるスポ
ラクロス

すぽーつ人 陸上

あなたは大丈夫?
運動前、運動中、運動後



一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団



[写真撮影] 中村 浩一

もスポーツをせずに過ごしました。毎日何をやっていたのか記憶にないくらいです。でも、できもしないのに新しいグローブを買ったりしていました。いつかやりたいという気持ちだけはあつたんですね」

天塩高校では、バレー・ボール部のかたわら、男性社会人に交じって朝野球でプレーを再開。高校卒業後も地元農協に勤務しながら朝野球を継続していた2001年の夏のある日、札幌の女子軟式野球チーム・札幌シェールズが全国準優勝したという新聞記事を知り合いが持つて来てくれた、女子野球選手として歩み出す転機となります。

「女子野球というものがあるんだと初めて知りました。さっそくシェールズに問い合わせをして翌年に入団させてもううと、たくさんのがん選手が普通に野球をしていることが新鮮でした。全国大会で優勝を争う経験もし、野球で上を目指したいというス

もスポートをせずに過ごしました。

「イッチャが入りました」

この2年には早くも女子硬式野

球世界大会への初出場を果たし、

準優勝の結果も残しました。しか

し、世界大会が硬式なのに、国内に

硬式クラブチームがないことに問

題意識を持った金選手は大阪の選

手と話し合い、北海道と大阪に2

つの硬式クラブチームを作るため

に動き出しました。道内の関係者

に掛け合った結果、05年に男子の

札幌ホーネッツの妹分としてホー

ネツ・レディースの立ち上げにこ

ぎ着けます。また、この年には第一回の全日本女子硬式野球選手権を開催することもできました。

「当時、既に本州にはいくつか高

校の女子野球部がありましたが、

『卒業後の受け皿になるクラブ

チームがなかつたら日本代表のレ

ベルが上がらないよね。複数の

チームができれば大会も開ける

ね』という話を大阪の選手としてい

て、協会に打診した成果です。今後は北海道でも高校や大学に部活のチムができたらと思っています」

こうして、02年から日本代表であり続け、日本女子硬式野球が向かうべき道筋の先頭を歩いてきた金選手。06年から1年おきに開催されるW杯では、10年大会での主将としての充実した働きや12年の打点王などの成績で3連覇に貢献しました。一方で、複数のチームが切磋琢磨できる関東や関西を中心にレベルアップする国内や、アメリカやカナダなどの強豪国がパワーに加えて日本流のスマートベースボールを学び始めた世界の潮流に負けられないという意識も新たにしています。

「まだまだ自分の中で成し遂げていない部分、もっとレベルアップでき部分があるという思いがあります。大きい当たりは狙つて打つものではないと考えていて、自分のことを基本的にアベレージヒッターとしているのですが、最近になつてから飛ぶようになつていてるんです」

「今年36歳になるベテランになつて、なお進化を遂げる金選手。そこには努力を後押ししてくれる大物プロ野球選手との出会いがありました。北海道日本ハムファイターズの

選手(ホーネッツ・レディース)は、小学校低学年までには既に剣道、アルペンスキー、バレー・ボール、レスリングと多彩なスポーツを楽しんでいました。どの競技も大好きなだけはあつたんですね」

天塩町で生まれ育った金由起子選手(ホーネッツ・レディース)は、小学校低学年までには既に剣道、アルペンスキー、バレー・ボール、レスリングと多彩なスポーツを楽しんでいました。どの競技も大好きなだけはあつたんですね」

「父親が朝野球、母親がソフトボーラーをしていたので、元々両親の試合を見に行ったり、キャッチボールを

見ていました。そのころから『いつか野球をやりたいな』という気持ちが芽生えていたんだと思います」

しかし、1980年代の道北の田舎町に、野球少女の意欲を完全に満たすほどの環境は望めませんでした。まずは周囲に野球をやりたい同じ運命に導かれるように自然とひかれていきました。

「父親が朝野球、母親がソフトボーラーをしていたので、元々両親の試合を見に行ったり、キャッチボールを

PROFILE

金由起子 [コン ユキコ]

生年月日：1977年9月20日
出身地：天塩町

内野手。天塩中一天塩高。小4で少年野球を始めるが中高では競技環境に苦しむ。2002年に世界大会に初出場し、05年に自ら働きかけてホーネッツ・レディースを設立する。08年、10年、12年とW杯3連覇中。

[特集インタビュー]

札幌ホーネッツ ホーネッツ・レディース

金由起子

野球少女の夢は果てしなく
貴重な出会いで進化は続く

今、日本の女子硬式野球界は活性化の兆しが見え始めている。

そして、ここに至るまでの時代の先頭を走ってきた

パイオニアの1人と言えるのが、

W杯の3連覇にも貢献した金由起子選手だ。





2010年に道内のマスターズ大会に出場したときのスナップ。足にケガを抱えていて、全力は出せなかつた。



SPORTS - HUMAN

すばつ

中高大で陸上100メートルの日本チャンピオンになった三女の沙織さんにだづらせるような愛情で中学生を指導するスポーツ人、北風利明さん、58歳。



卒業しても教え子がどんなふうに成長しているか気になる。よく大会現場に足を向け、エールを送る。

自らにハードなトレーニングを課し、教え子の道しるべに

2010年に道内のマスターズ大会に出場したときのスナップ。足にケガを抱えていて、全力は出せなかつた。



北大女子ラクロス部では、「今までと違うことをしたくて」と入部する人が多い。明るいチームカラーで全道女王を目指す。



攻撃側はゴール周辺のサークル内に入れない。裏側も使ってゴールを狙う。

LACROSS

ラクロス

おしゃれなイメージと真逆のハードさ
様々なスポーツをミックスした魅力



女子ラクロスは男子と
違って、ボディチェック
は反則だ。



ラクロスは先端が捕獲網のようになつたステイックでボールをパシしたり、ボールを落とさないクレードルと呼ばれるステイックをさばきをしながら走り込んで、ゴールを狙うスポーツです。ボディチェックが可能な男子に比べると、ステイックのみにチェックできる女子の場合はルールも戦略もかなり異なりますが、ハードさは相当あります。



[取材協力]
日本ラクロス協会
北海道大学女子ラクロス部



Profile

北風 利明さん

(きたかぜ としあき)
1954年生まれ 58歳
陸上指導歴 20年

弟子屈高卒。江別大麻中で3人の娘が卒業後も陸上の指導を続ける。2010年に道内の陸上マスターズ大会に初出場し、ケガの影響もあって100メートルと400メートルで2位。スキーのマスターズ大会でも全道優勝の実績。テクニカルプライズと指導員の2つの基礎スキー資格を持つ。

第36回

北海道を歩こう

結果報告

平成25年5月26日(日)札幌市南区真駒内より支笏湖ポロビナイまでの自然豊かで起伏に富んだ全長33kmの完歩を目指す「第36回 北海道を歩こう」を開催しました。

開催時期を9月から初夏に変更して3回目の開催となり、最年少1歳から最高齢88歳まで2,360名の過去最多となる



参加者が10kmコース(真駒内カントリークラブ)、33kmコース(支笏湖ポロビナイ)をそれぞれのペースで完歩を目指しました。

5月は日照時間が少なく、気温の低い日が続いておりましたが、大会当日は快晴となり、初夏の日差しを受けながらの歩行となりました。

北日本最大の市民ハーフマラソン大会



38th
SAPPORO
MARATHON

札幌マラソン

■日 時 / 2013年10月6日(日)

■会 場 / 真駒内セキスイハイムスタジアム

■申込期限 / 専用振替用紙による申込:〈ハーフ〉6月14日(金)

〈その他〉6月28日(金) [消印有効]

インターネット及び携帯電話サイトによる申込 7月12日(金)

※ハーフマラソン・10kmは申込期限前でも定員となり次第締め切ります。

■種目・参加料(消費税含む)・スタート時間

種 目	参 加 料	スタート時間
■ハーフマラソン〔定員:先着6,000人〕(高校生または16歳以上)		
男子 10／20歳代・30歳代	申込締切 一般 5,000円	11:50
女子 10／20歳代・30歳代・40歳代・50歳以上	高校生 1,800円	
■10km〔定員:先着5,000人〕(高校生または16歳以上)		
男子 10／20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳以上	一般 3,500円 高校生 1,600円	11:20
女子 10／20歳代・30歳代・40歳代・50歳以上		
■5km		
車イス(日常車イスで生活をしている方)	高校生以上 1,600円 小・中学生 1,000円	10:25
オープン(高校生または16歳以上)	1,600円	10:35
■3km		
中学男子・中学女子	1,000円	10:00
小学4～6年生		10:05
ファンペア 小学4～6年生と18歳以上の保護者の2名1組	ペア1組 3,500円	10:10
■2km		
小学1～3年生	1,000円	10:15
ファンペア 小学1～3年生と18歳以上の保護者の2名1組	ペア1組 3,500円	10:20

※参加料(消費税を含む)は、申し込みの取り消し、または大会不参加のいかなる場合でも返金しません。

※ファンペアの「保護者」とは、親だけではなく、祖父母や親戚・兄弟なども含みます(18歳以上の高校生も可)。

申込方法

①インターネット・携帯電話サイト(エントリー手数料がかかります)

インターネット <http://www.shsf.jp/satumara/>
<http://runnet.jp/>



携帯電話サイト <http://runnet.jp/>

②専用振替用紙

専用振替用紙(コピー不可)に必要事項をご記入の上、参加料等を添えて、ゆうちょ銀行又は郵便局窓口でお申し込みください。
 確認用にコピーと受領証を大会まで保存してください。※払込手数料120円

専用振替用紙が必要な方は、返信用封筒(切手貼付)を同封の上、下記のエントリーセンターまでご請求ください。
 切手料金は請求部数によって異なりますのでお問い合わせください。後日エントリーセンターから専用振替用紙をお送りします。

〒152-8532 東京都目黒区原町1-31-9 札幌マラソンエントリーセンター TEL.03-3714-7924 (平日10:00～17:00※土日祝を除く)



交通機関のご案内

■地下鉄南北線真駒内駅より臨時バス(有料)を運行します(大人200円、小人100円)。
 行き(真駒内駅→真駒内セキスイハイムスタジアム)…8:30～10:15
 帰り(真駒内セキスイハイムスタジアム→真駒内駅)…12:30～15:00(予定)
 ※ウイズユーカード・乗り継ぎ券も使用することができます。
 ※ニコニカッキーは使用できません。

※会場周辺には駐車場がありますが、必ず公共交通機関をご利用ください。なお、駐車禁止場所に駐車されると、周辺住民に多大な迷惑となるため、絶対におやめください。違法駐車は厳しく取り締まります。また、会場周辺の大型店舗(イオン札幌店、やまと川沿店、コナミスポーツ等)の駐車場に無断で駐車された場合は、レッカー移動する場合もありますのでご注意ください。会場付近への駐停車は一切できませんので、会場への車での送迎は絶対におやめください。

